



# しほろ

平成24年 2月 No.143

## 議会だより

■発行／士幌町議会 ■編集／士幌町議会広報特別委員会

ホームページアドレス <http://www.shihoro.jp/hp/gikai2/index.htm>



道産カラマツ材を多用した「かみおりベ木と太陽の香るエコ交流館」

### 12月定例会

審議した議案ほか ..... 2ページ

### 一般質問

「農畜産物における今後の被害対策について」ほか9件 ... 4ページ

### 委員会調査報告

介護保険第5期改定に向けてほか1件 ..... 9ページ

### かけ橋

「青年団について」

士幌町連合青年団 団長 山田 貴博 さん ..... 10ページ



2月8日行われた落成式典



## 弔慰金の支給に関する 条例の改正

法律の改正に伴い、災害弔慰金を支給する遺族の範囲を、配偶者・子・父母・孫・祖父・母のいずれも存しない場合、兄弟姉妹に対し支給されるよう条例を改正。

## 人権擁護委員の推薦



任期満了に伴い、嶋田美代子さん(高徳の再任)同意。

## 一般会計補正予算

歳入歳出の総額にそれぞれ3258万7千円を追加する補正予算を可決。  
主な補正内容は次のとおりです。

- 安心安全づくり事業委託金 407万円
- 国民健康保険事業繰出金 369万円
- 居宅サービス利用者負担軽減措置事業扶助費 35万円

● 中土幌保育園運営費委託料 375万円

● へき地保育所備品購入費(上居辺交流館) 267万円

● 失業対策事業(解体工事) 680万円

## 第1回臨時会

1月19日

◎ いずれも全員一致で可決。  
■ 一般会計補正予算(第8号) 歳入歳出の総額にそれぞれ2932万2千円を追加。主な補正内容は次のとおりです。

○ 中土幌保育園運営費委託料 122万円  
○ 乾式脱粒装置復旧工事(パイオガスプラント施設) 390万円

○ 歩道除雪業務委託料 50万円  
○ 重機借上料(除雪車) 2200万円

○ 全国・全道競技大会参加助成金(中学校) 52万円

■ 介護サービス事業特別会計補正予算(第4号)  
■ 簡易水道事業特別会計補正予算(第4号)  
■ 農業共済事業特別会計補正予算(第5号)

■ 国民健康保険病院事業会計補正予算(第1号)

9月定例会以降の行政の経過について、小林康雄町長より報告がありましたので、要約してお知らせします。

## 開 町90周年記念式典

11月15日開催  
大正10年に音更村から分村して90年の節目の年にあたり、町内外から300名余の方々が出席のもと記念式典を執り行い、本町の発展に貢献された功労者の方々の表彰と高齢者顕彰を行った。

PP参加反対の取り組みを展開  
これまで交渉参加への反対運動に積極的に参加してきた。農業を基幹とする本町は、TPP協定が締結され国内対策が充分なされなかつた場合、その影響は地域経済や町民生活の根幹に及ぶとの認識のもと、農業関係団体はもとより町民総ぐるみで反対の取り組みを展開していく。

## 行政報告

交通事故ゼロを目指す  
緊急集会開催  
1年間に3件の死亡交通事故が発生する極めて異常な事態であることから、10月28日約120名の出席により集会を開催。交通事故ゼロへの更なる取り組みを確認した。

す ことやカロードに認定  
総延長2・2km  
遊水公園↓総研前↓カシフ並木↓26号↓郵便局前を通るウォーキングコース「遊水・カシフ並木コース」が、「すことやカロード」に認定された。

身近で気軽に楽しく健康づくりを行うためのウォーキングロードで、来年度早々にコースの表示や環境の整備を行い、町民でウォーキングするイベント開催やマップの配布を予定。

プ レミアム商品券  
待望の500円券  
夏・冬合わせて発行総額約1億1千万円、取扱店総数92店で実施。今回から500円券としても使用が可能になった。

## 議会日誌

- 12月 第6回議会臨時会 全員協議会
- 20日 十勝町村議会議員研修会
- 24日 本別町議会視察来町 あさざり町議会視察来町
- 25日 広報特別委員会
- 26日 産業厚生常任委員会 管事務調査(27日)
- 11月 広報特別委員会 TPP交渉参加問題を考える道民集会
- 15日 開町90周年記念式典 町村議会議長全国大会 総務文教常任委員会 産業厚生常任委員会 TPP講演会
- 24日 総務文教常任委員会 管事務調査
- 12月 町村議会議長会定例会 議会運営委員会 第4回定例会(14日) 全員協議会
- 2日 総務文教常任委員会 産業厚生常任委員会 産業厚生常任委員会 広報特別委員会
- 5日 議会運営委員会
- 9日 第4回定例会(14日) 全員協議会
- 14日 総務文教常任委員会 産業厚生常任委員会 産業厚生常任委員会 広報特別委員会

**出村 寛 議員**

・農畜産物における今後の被害対策について

**大西 米明 議員**

・介護保険料について  
・町有施設に太陽光発電を  
・24年度予算編成について

**細井 文次 議員**

・TPP対策本部について

**中村 貢 議員**

・道東道を活用した振興策について

**飯島 勝 議員**

・地域住民活動について

**清水 秀雄 議員**

・TPP交渉参加と今後の対応について

**加藤 宏一 議員**

・資源回収の今後について

**和田 鶴三 議員**

・要介護者の生活実態について

# 農畜産物の被害対策は

## 土地基盤整備を積極的に推進



出村 寛 議員

**質 問**

近年異常な気象、事象で農畜産物に甚大な被害を受けている。本町も21年、23年に異常高温、干ばつで大きな被害を受けた。このような気象、事象に備えた対策についてどのように考えているのか。

**小林町長答弁**

今後さらに土地基盤整備を積極的に推進し、農業対策本部を中心に農協、普及センターと連携をしながら情報共有や技術指導の徹底を図りたい。

**質 問**

基盤整備について、パワーアップ事業が23年度以降についても継続されたが、5年ごとの時限立法であり、なく



水害を受けた畑（9月）

なる不安もあるが今後も安心して行えるのか。

**小林町長答弁**

土地連等も含め、継続について強く道に要求している。国に対しても、パワーアップ事業を中心とする土地改良事業の推進を積極的に要請していきたい。

**質 問**

福島原発事故の風評被害による牛肉価格の下落分について、東京電力の損害賠償は本町では9割ほど支払

われる見込みである。10月から町内牛の全頭検査が行われ検査機器の導入費用も請求が行われるが、残り約1割の支払い時期は未定で、この先支払えない場合、農業災害補償基金を活用できないか。

**小林町長答弁**

検査機器は

補償の対象になると聞いている。動向を見て町も支援をしていきたいが、農業災害補償基金を使うのは困難である。当面東京電力に対する損害賠償請求がスムーズにいくよう支援をしていく。

# 第5期介護保険料の試算は

準備基金の取り崩しにより月額4,800円程度で検討



大西米明 議員

**質 問**

第5期介護保険事業計画（平成24年から平成26年）に盛り込む65歳以上第1号被保険者の介護保険料の基準額は幾らにしようかと試算しているのか。

**小林町長答弁**

高齢化率が増加することとあわせて、介護保険の認定者及びサービス利用者の増加に伴う介護給付費の増加が見込まれ、

**質 問**

高齢化率が上がることが介護保険料が上がる要因にどうしてなるのか。

**小林町長答弁**

サービス利用者が増加すれば、保険料は上がることにつながる。

**質 問**

1号被保険者の保険料を払う人が約90人増加し、支える金額になり、分母が多くなって分子が少なければ保険料

# 平成23年 第4回定例会

# 一般質問

12月定例会では、8人の議員が一般質問にたち10項目について理事者の考えをただしました。内容を要約してお知らせします。

が安くなる。5,000円となれば25%の値上げで、高齢者にとっては負担が大きくなると思うが再度基準額の算定について伺う。

**小林町長答弁** 現在、支払い準備金は3,000万円であり、500万円を当面取り崩して月額4,800円程度に抑えるよう検討する。

## 避難場所も含めた 太陽光発電システムの設置を

財政を加味し推進

大西米明 議員

**質問** 国は、自然エネルギーの拡大を進めようとしているが、町としても環境への負荷も小さい太陽光発電を町有施設に設置しては。

**小林町長答弁** 公共施設に設置し、稼働中の太陽光発電システムについては、平成21年3月に川西へき地保育所に10キロワット1基と平成22年度には土幌小学校と中央中学校にそれぞれ1基、3,000万円の事業費を要してそれぞれ20キロワットの太陽光発電システムを設置している。町としても今後普及、推進を図っていきたく考えている。

**質問** 想定外のことを相定することがこれからの災害に向かい合う対策だと思ふ。避難場所は耐震化も必要かもしれないが、まずそこで昼間だけでも電気があると情報も

とれる。年次計画で全施設に太陽光発電をつけていく計画を立てるべきではないか。



中央中学校の太陽光発電

かということを加味しながら今後普及、推進を図っていきたい。避難場所に設置するの

は大変貴重な提言としてお聞きをして、今後地域の防災計画も見直しをし、太陽光を含め自然エネルギー政策として十分内部検討をしながら取り進めていきたい。

## 24年度予算編成の重点は

効率的な行財政を推進

大西米明 議員

**質問** 平成24年度予算編成作業にあたって、大震災復興財源確保などによる地方交付税及び補助金の削減により財政状況が不透明であると思ふがその影響は。また、行政の重点をどこに置いて予算編成を行っていくのか。

助金についても大幅な削減も予想されるところで、厳しい状況が続くものと懸念をしている。

**小林町長答弁** 総務省の平成24年度概算要求段階では地方交付税総額が23年度に比較して1・6%減されている。また、震災と金融危機に直面する経済の再生を考慮し、地方交付税、さらには補



平成24年度予算編成作業

第5期の町づくり総合計画や行政改革大綱を基本にしなから、町づくり懇談会などで出された意見、要望も反映させ編成をしていく。

特に、定住人口の安定、地域活性化対策、健康づくり対策、障害者支援対策、更に子

育て支援とあわせて教育環境の充実に留意しながら予算編成を行っている。

いずれにしても、施策の選択と集中ということと効率的な行財政を旨として、めり張りのある予算づくり、町政推進を行ってまいりたい。

## 町TPP対策本部の設置を

### 農業振興対策本部において対応

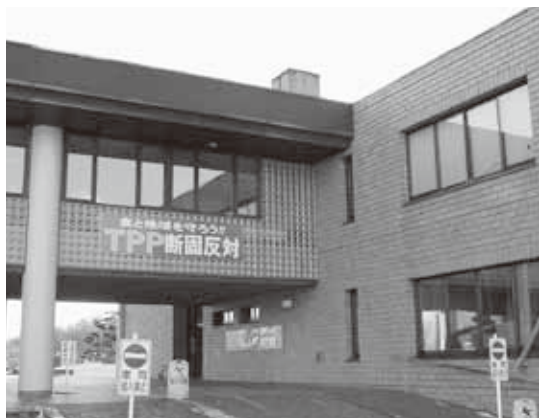


議員 細井文次

**質問** 土幌町TPP対策本部を設置し、町民生活に与えるさまざまな影響について対応を検討してはいかがか。

**小林町長答弁** 町として、断固反対の姿勢を鮮明にしなから、反対運動に積極的に参加してきたところであるが、今後においても協定が地方の産業や生活に及ぼす影響についての情報提供と、引き続き

加反対の取り組みを展開していく。町としては、課長会議等において情報収集及び分析を行うとともに、農業振興対策本部において対策の検討を行いたい。



TPP反対をアピール

協定には参加しないよう町民会等を通じて強く求めていくとともに、町民総ぐるみで参

加反対の取り組みを展開していく。町としては、課長会議等において情報収集及び分析を行うとともに、農業振興対策本部において対策の検討を行いたい。

**質問** この1年間反対活動を展開されているが、農業者以外の町民の皆さんには少し危機感が少なく町民が受ける影響の情報を知らせていく必要があるのではないか。

**小林町長答弁** TPPの内容、影響についてのPRを何らかの形で行うよう今後考えていきたい。

**質問** TPPは農業の問題だけではなく、産業、医療、雇用、多くの部分を包括的に対策を講じていくべきと考え、対策本部の設置を求めている。多くは農業以外の分野で問題が存在していると思われる。

**小林町長答弁** 現状の状況からすると、当面は情報収集で、交渉の今後の進展状況を見きわめることが重点となる。今の段階で町と

して特段対応を考える状況でないことから、当面は課長会議の中で情報収集を行い、必要に応じて対策本部を設置をしていく。

要に応じて対策本部を設置をしていく。

要に応じて対策本部を設置をしていく。

## 道東道を活用した町としての振興策は

### ハード・ソフト両面での取り組み



議員 中村 貢

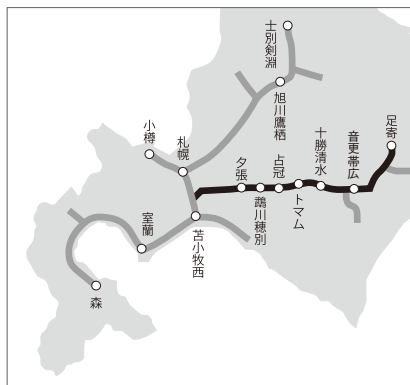
**質問** 道東道が全面開通し、観光客の増加や物流の効率化など地域の活性化に大きな役割を果たしていくと期待するが、町としての振興策は。

**小林町長答弁** 町の交流、発信の拠点である土幌高原又プカの里、道の駅しほろ温泉、道の駅ピア21の充実を図るとともに、北十勝4町の連携や広域観光事業に積極的に参加をしたい。さらに農商工連携を推進し、各種施策を組み合わせながらハード、ソフト両面から交流

人口の拡大や経済交流の充実を図りたい。

**質問** 22年5月に北海道スポーツ観光連絡会議が設置され、道外からのスポーツ合宿、スポーツの大会等の誘致に向けて活動している。現在商工会でもスポーツ合宿等誘致構想をつくり、人口交流の拡大による地域活性化を目指しているが、これに対しての

活性化を期待する道東道開通



活性化を期待する道東道開通

町長の考えは。

**小林町長答弁** 今後関係機  
関で誘致協議会を設置しなが  
ら十分検討していきたい。当  
面は、1年くらいモデル事業

としていろいろな施設提供お  
よび宿泊施設の利用等に便宜  
を図りながら支援を行い、事  
業が定着するよう町としても  
努力をしていきたい。

## 町づくりの主体は

地域と行政が連携して推進



飯島 勝 議員

**質問** 第5期町づくり総  
合計画の前文で「これか  
らの町づくりは地域の政  
策・施策は地域住民が自  
ら決定し、決定責任もま  
た自ら負うという自主・  
自立性が求められている  
す」と記載されている。

の公平性と透明性を確保する  
とともに、住民の参画を基本  
にしながら、住民と行政の良  
好なパートナーシップを発揮  
した町民自治を目指した事業  
実施方針を掲げている。

活発な地域住民活動を  
望むのであれば、ハード  
ルが高過ぎると思うが、  
町長の考えを伺う。

**小林町長答弁** 本町は  
積極的な情報公開と行政



下居辺悠湯サロン

まちづくり基本条例の第5  
条に規定する「町民及び町は  
役割と責任を認識し、相互に  
参画をして協働して…」との  
考えであり、必ずしも特定の  
個人あるいは地域が決定し、  
責任を負うこととでなく、

町民、地域と町がそれぞれ役  
割や責任を認識しながら、こ  
れまで以上に地域資源や住民  
の皆さんの知恵や工夫を地域  
づくりに活かすとともに、地  
域と行政がしっかりと連携して  
推進したい。

## 町長が 反対世論構築の牽引者に

タイミングを見て役割を果たす



清水秀雄 議員

**質問** TPPに参加した  
場合の十勝経済への影響は、  
合計で5,037億円減少す  
ると言われ、TPPの締結は  
人の移動、金融、環境、医療、  
入札などのありようを大きく  
変える可能性があり、地域社  
会の崩壊につながるかねない。  
町長は、今後どのような対応  
を考えているのか。

の根幹に及ぶとの認  
識のもと、その動向  
に注目をし、農業団  
体はもとより町民総  
ぐるみでTPP参加  
反対の取り組みを展  
開していく。町内的  
には農業振興対策本  
部で情報を共有し対  
応する。

**小林町長答弁** TPP協定  
の影響は地域経済や町民生活

**質問** 野田総理  
は今参加に向けて暴  
走して、これをとめ  
ることができないのは  
反対世論を構築して  
いくことである。土  
幌町での反対集会お



TPP参加反対！全道統一キャラバン（土幌農協前）

よび全勝的にも反対集会を  
立ち上げる取り組みを、町村  
会の副会長という立場の町長  
が、ぜひ牽引者になつていた  
だきたいが、町長の決意のほ  
どを伺う。

**小林町長答弁** 十勝農業確  
立懇話会と商工会議所などが  
連携をして、TPPについて  
反対をしていく。集会等は交  
渉の動向、必要なタイミング  
を見る必要がある、十勝的な  
取り組みの中で私もその役割  
を果たしていきたい。

# 住民に意欲の持てる

## 資源回収を

地域や子供たちの活動支援に活用



議員 加藤宏一

**質問** 有価物の販売実績が平成17年の815トンをピークに年々減少傾向にあり、平成22年では620トンとなり、2000トンほど減少の結果になっている。これが単に消費の減少が影響しているのか、もしくは町民の意識が薄らいできているのか。

町としてはいかなる施策をもって事業展開をしていくのか。

**小林町長答弁** 経済、

景気を反映した消費の減少ということもあると思うが、何よりも町民の皆様のリサイクル、リユース、リデュースの理解と実践が減少となった大きな要因



各町内会によるリサイクル資源の搬入

である。具体的には、包装の簡素化やエコバッグの使用など、地道な活動のあらわれであり、決してリサイクルへの意識低下がもたらしたものである。収集された資源の販売額については、この5年間の平均で年間約1,000万円程度の収入となっている。

**質問** 1,000万円の売却益の情報提供を、町側が余り示さなかったことに対して非常に不満を感じる。

売却益の有効な活用を検討してみたい。

**小林町長答弁** 今後、広報等を通じて販売状況もお知らせしたい。町民皆さんの努力の積み上げの1,000万円

であることから、具体的に家庭や地域の取り組みのPRを行うとともに、地域活動や子供たちの活動にも反映するよう、今後予算編成の中で検討したい。

# 要介護者の自宅待機対策は

介護基本計画で検討



議員 和田鶴三

**質問** ①本町の特別養護老人ホーム入所待ちの実態は

どのようになっているのか。  
②待機者の介護サービスはどのようなになっているか。  
③今後待機者の増加が予想されるが、どのような対策を考えているか。

**小林町長答弁** ①町内における特別養護老人ホームの待

機者の状況は現在55人である。②それぞれ介護サービスを利ししながら待機している。さ

らに、昨年度から町と農協で認知症高齢者等支援試行事業を実施している。  
③平成24年度開設の小規模多機能居宅介護事業所において地域密着型の在宅サービスとして登録者25名を最大として、シ

ョートステイ、デイサービス、ヘルパーサービスを複合して利用することが可能となる。

今後は在宅サービスの拡充を基本とし、適正な介護サービス



建設中の小規模多機能居宅施設

の提供に努めたい。

**質問** 要介護予備軍に対する対策はどのように考えるか。

**小林町長答弁** 高齢者住宅の整備を検討していかなければならないが、同時に介護予防事業が極めて重要であり、今後更に予防事業の充実を図る取り組みをしてまいりたい。



# 委員会調査報告

## 産業厚生常任委員会

### 調査事項1 介護保険第5期改定に向けて

#### ◎調査期日及び場所

10月26日 由仁町  
10月27日 壮警町  
11月15日 委員会室

#### ◎所感

由仁町は厳しい財政で、公共福祉施設の建設を行わず近隣町の介護サービス施設を利用し、町運営の地域密着型サービス施設は指定管理者を導入するなど積極的な財政の健全化を図った。

この様な中、第1期介護保険料は月額3,300円、第2期の保険料が3,600円、第3期保険料が3,200円、第4期計画時には基金の取崩しと利用者の減少により、保険料を3,000円に引き下げた。

特に特定健診の受診率向上

して各施設を建設した。

施設サービス利用者の割合が非常に多く軽度の段階から利用傾向にあり、第1期介護保険料は月額4,417円、第2期の保険料が4,183円を設定したが財源不足が生じ、北海道財政安定基金から借り入れを行った。第3期保険料が5,333円、第4期保険料は5,300円と高額に推移する結果となった。

このことから本町と比較すると人口割合では保険者が多いが、高額な介護給付費の施設利用者割合が低く、低額な水準で保険料が推移し、町民は介護サービス事業の運営に満足している。平成23年4月、新たに民営の特別養護老人ホームを建設した。町内の利用者は増加傾向にあり、第5期介護保険計画を策定中であるが、試算では今後高齢化が進みサービス利用者が増加し、月額1,500円程度増額になると予想される。

壮警町は介護保険法制定以前から、企業誘致など政策と

### 調査事項2

### 町有施設の経営等について

#### ◎調査期日及び場所

11月15日 委員会室

#### ◎所感

しほろ温泉「プラザ緑風」は入湯客数はほぼ横ばいで推移しているが、宿泊及び日帰りの客数は平成19年度以降、年々減少し売上金額も低下している。土幌高原「ヌブカの里」の利用者数は「十勝シーニックバイウェイ」の指定を受け「シーニックカフェ」を開催し、平成19年度から指定管理者の努力により宿泊、日帰り客数は急激に増加し、特に宿泊者数は増加傾向にあるが、日帰り客数は年々減少傾向となっている。

また、物産振興公社「道の駅ピア21しほろ」は、ここ数年新商品の販売などで売上高は伸びているが、同時に原材料の仕入れも上昇し利益率の確保が困難な状況にある。

各施設の利用者が減少する中、いかに人を呼び込むかを検討した結果、新たな発想や

種々の施策が必要であり、北海道スポーツ観光連絡会議が推進している修学旅行の受入やスポーツ団体の合宿、大会等の開催により町内複数の運動関連施設の有効活用で「プラザ緑風」、「ヌブカの里」の宿泊者の増加が見込め、併せて経済効果が期待できる。

さらには、スポーツイベントの開催により道東自動車道の開通など、北海道の中心都市である札幌市との移動時間が短縮となり、観戦者や観光客の増加が予想される。

スポーツによる青少年の育成など「スポーツ等合宿」の誘致活動や体制づくりを整備し「地域の活性化」を図ることが肝要であると思われる。

なお、「プラザ緑風」、「道の駅ピア21しほろ」の運営にあたっては積極的な事業展開が望まれるが、当面は経営が改善するまで支援が必要であると思われる。



かけ橋

## 青年団について

士幌町連合青年団 団長 山田 貴博さん

本年度1年、連合青年団団長を務めるにあたって、今までに何かの先頭になってやるという事がなく不安な点多くありましたが、連合青年団の役員や各支部の団員の力もあり、何とか団長の役割を果たす事ができました。

上の団員がいたというのを聞くと驚くばかりです。年々団員が減少していく中でそれぞれには負担が大きくなっていると思います。

私が青年団に入団した頃は、今よりも団員数、支部数ともに多い時でした。最初は青年団に入団するかも迷い、入った時は全ての活動が面倒に思

た事もありました。しかし、青年団に入り9年が経った今は、青年団活動を通じて公私ともに気の合つ仲間がでぎ、今までに話をする機会がなかった人達とも関わる事ができる良いきっかけになっていてと思います。

青年団に入って先輩たちと一緒に活動する事も多く、お酒の飲み方を教

わったのも青年団に入ってからでした。そういう場で、仕事の話や色々な面で勉強になる事が多くなるのも青年団に入っているからこの繋がりだと思

います。これまで私を育ててくれた青年団で学んだ事を後輩にも伝えていければと思います。

ここ数年では、他町村の青年とも交流を増やしスポーツなどを通じ、青年団の活動の幅を広げ、より活発にしていきたいと思っています。

これからはもっと他団体との交流を増やし色々な繋がりを持ち、そこの意見交換がこれからの力になればいいと思います。

現在の青年団の一番の問題として、団員の減少という事

7000人のまつりに参加「金魚すくい」



が 있습니다。今は支部が2つという事で青年団に入るきっかけが少なくなっているのかとも思いますが、もっと積極的に声をかけ同年代の仲間を増やしていければと思っています。

団員が年々少なくなりつつありますが、私たち青年団は、町の若者として、町の主要行事に参加していき、少しでも私たちが街を活気のある場所にしていければと思います。

### 3月定例会を傍聴しませんか。

第1回定例会は、3月9日から開催を予定しています。詳しい日程はチラシでお知らせしますので、皆様の傍聴をお待ちしています。



議会だよりを通して議会活動の様子を少しでも多くの町民の皆さんにお知らせすることができるようにと編集にあたっては、12月の定例会では8人の議員から10項目の質問がありました。

限られたページ数の中で、内容を簡潔に、わかりやすく要約する努力をしましたが、質問者や理事者の思いを十分に伝えることができていないか、心配な一面もあります。

ぜひ、ご意見をお寄せ下さい。

清水 秀雄